

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

|         |                    |            |            |
|---------|--------------------|------------|------------|
| 事業所番号   | 4590300051         |            |            |
| 法人名     | 株式会社 おいでの里         |            |            |
| 事業所名    | グループホーム スローシティピアノ  | ユニット名      | ソナタ        |
| 所在地     | 宮崎県延岡市平原町1丁目 854-1 |            |            |
| 自己評価作成日 | 平成29年 1月9日         | 評価結果市町村受理日 | 平成29年3月15日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="http://www.kaijokansaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kanitrue&amp;livevoCd=4590300051-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokansaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kanitrue&amp;livevoCd=4590300051-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a> |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                           |
|-------|---------------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会          |
| 所在地   | 宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階 |
| 訪問調査日 | 平成29年2月8日                 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スローシティピアノでは「ゆっくり」「その人らしく」を基本とし、日々の生活の中で楽しみがあり、意欲的に過ごせるように支援しています。食事を回想療法にも取り入れ、食事形態も工夫し、食べる楽しみを持ってもらえるようにしています。医療と連携し、毎日の健康管理や感染症予防に力を入れています。地域密着としては近隣や地域の食材を利用し、ご家族やボランティア、保育園、学校等の訪問、関わりを持ち、防災についても真剣に向き合い、共助できるように努力しています。職員もスキルアップに認知症実践者研修、認知症ケア専門士を受講し、認知症に対する理解を深め、実践に活かせるようにしています。利用者様が自宅に居るような馴染み深さをめざし、ご家族や親せき、近隣、他事業者も訪問しやすい、温かく、どこか懐かしいホームとなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は、市内に複数の介護事業を展開し組織体制を確立しており、職員の育成にも力を入れ、質の高いサービス提供に努めている。設立当初からの職員や若い職員の意思の疎通が図られ、チームワークが良い環境で働くことや採用時の研修に時間をかけ充実させることで、理念である「ゆっくり」「その人らしく」を基本としたケアの提供につなげている。また、母体が医療法人であり、定期的な往診や日々の体調の変化を看護師から主治医へスムーズに連絡することができるなど、連携を図ることで利用者も家族も安心して生活ができるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目   | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印   | 項目  | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印   |
|--|---|---|---|
| 56<br>職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)     | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらい<br>3. 利用者の1/3くらい<br>4. ほとんど掴んでいない | 63<br>職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,19)   | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |
| 57<br>利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)           | <input type="radio"/> 1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                | 64<br>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                     | <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |
| 58<br>利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                 | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 65<br>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) | <input type="radio"/> 1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くいない           |
| 59<br>利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)   | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 66<br>職員は、生き活きと働けている<br>(参考項目:11,12)                                      | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |
| 60<br>利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 67<br>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |
| 61<br>利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:30,31)       | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 68<br>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |
| 62<br>利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている<br>(参考項目:28) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  |   |   |

## 自己評価および外部評価結果

| 自己                 | 外部  | 項目   | 自己評価   | ソナタ   | 外部評価   |                   |
|--------------------|-----|--|--|---|--|-------------------|
|                    |     |  | 実践状況   |   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |     |  |  |   |  |                   |
| 1                  | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                             | 当事業所の理念に基づいて、利用者のニーズに応えられるよう、毎朝の申し送りや月に一度の定例会、会議等で話し合い、職員が理解、把握し、ケアを実施している。    | 採用時のオリエンテーションや研修に十分な時間をかけており、理念に沿ったケアを理解している。また、毎朝の申し送りや職員会議等で話し合い、理解を深めてケアを実践している。             |  |                   |
| 2                  | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している                             | 近隣への挨拶は勿論、地域への組活動やボランティア、保育園児の訪問を受けている。食材においても近隣の魚屋、卸、米、醤油等で調理を行っている。          | 自治会に加入するなど、地域の情報を積極的に取り入れ、防災訓練への参加もある。また、近所の商店を利用するなど、地域との関係を深めている。                             |  |                   |
| 3                  |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                           | 認知症理解の為、地域や家族に向けての同法人の勉強会に参加し、情報を発信している。高校生や福祉大生のボランティア等の受け入れを行っている。           |   |  |                   |
| 4                  | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている        | 二月月に一度、第二木曜日午後二時から、地域の方、行政、家族、利用者、薬局等の方々の出席で委員会を開催し、意見や指示を頂き、更なるサービス向上を目指している。 | 利用者や家族をはじめ、多彩なメンバーで開催し、報告と共に様々な意見や提案がなされている。出された意見はホームで検討し、日々の支援に生かしている。                        |  |                   |
| 5                  | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる                   | 市町村の担当者に電話や直接出向いて、書類や施設の進行、利用者の相談や適正について指示を受け、サービスに取り組んでいる。                    | 医療との連携に関することなど、適切に運営できているかを市の担当者に電話で尋ねたり、直接出向き意見をもらうなどしている。                                     |  |                   |
| 6                  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 研修や会議で身体拘束をしない為のケアについて、検討会を重ね、抑圧感のないケアに取り組んでいる。                                | 身体拘束の弊害については理解しているが、利用者の安全を考慮し、玄関は施錠し、インターホン対応にしている。昼間の解錠も検討しているが、設備集中管理の関係で、玄関だけの解錠ができない状況である。 | 話し合いを重ね利用者の安全を考慮しての施錠であるが、今一度、身体拘束のないケアに見直すことを期待したい。 |                   |
| 7                  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている        | 研修の参加に加え、月に一度の定例会等でも日頃のケアが虐待に繋がっていないかを検討し、防止に努めている。                            |   |  |                   |

| 自己 | 外部  | 項目   | 自己評価   | ソナタ  | 外部評価 |                   |
|----|-----|--|--|--|------|-------------------|
|    |     |  | 実践状況   |  | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している    | 管理者は権利擁護の制度について認識している。職員に制度の説明をし、活用できるよう会議や勉強会を行っている。                                |  |      |                   |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                         | 契約の締結、解約、改定の際は、利用者や家族の納得がいくまで説明を行い、締結している。   |  |      |                   |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                     | 運営推進委員会を通し、外部から意見を頂く機会を設け、家族や近隣、専門職の方々からの意見や要望には、随時対応している。                           | 家族と一緒に昼食を食べてもらい意見を参考にするなど、管理者自ら、家族や利用者が話をしやすい環境作りに努めている。                               |      |                   |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                      | 職員から意見がでると、室長から管理者へ話が上がるようになっていく。管理者会議、リーダー会議、定例会、ユニット会議等、意見交換の場を設けている。              | 職員同士で意見の出しやすい環境を作り、出された意見を管理者が把握し、運営に反映している。職員の意見から介護記録等の様式を書きやすい書式に見直し、業務の効率化につなげている。 |      |                   |
| 12 |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 代表者との面談があり、職員が直接話しができ、環境や待遇、資格取得による給与の増額の説明等、意見を出す場を設けている。その他にも年に数回の会食や社員旅行等も実施している。 |  |      |                   |
| 13 |     | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 事業所内外の認知症の勉強会や研修に積極的に参加し、月に一度の定例会では、外部からの指導を受けることもあり、スキルアップを目指している。                  |  |      |                   |
| 14 |     | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他の施設からの見学や当施設への訪問や見学での意見交換を行い、サービスの向上に取り組んでいる。                                       |  |      |                   |

| 自己                           | 外部  | 項目   | 自己評価  | ソナタ   | 外部評価 |                   |
|------------------------------|-----|--|---|---|------|-------------------|
|                              |     |  | 実践状況  |   | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |     |  |   |   |      |                   |
| 15                           |     | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用者が施設の環境に慣れるよう声掛けを行い、利用者の状態を観察しながら、コミュニケーションがとりやすい環境づくりを心掛け、利用者の声を大切にしている。       |   |      |                   |
| 16                           |     | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている            | 面会、訪問時にはゆっくり話ができる場所でお茶を飲みながら、家族の不安や悩みが聞けるよう配慮している。また、電話でも随時受けつけている。               |   |      |                   |
| 17                           |     | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている        | 入所前の本人の生活の様子や情報を医療やサービス事業所、家族から提供して頂き、面談を重ね、必要としている支援を見極め、対応に努めている。               |   |      |                   |
| 18                           |     | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                        | 本人のしたい事やできる事の見守りを行ったり、職員が共に行うことで、共感し、信頼し合える関係作りに努めている。                            |   |      |                   |
| 19                           |     | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている         | 本人と家族との関係の理解に努め、施設生活の中でも家族に関わってもらふ所は連絡をし、訪問時に行ってもらったり、他科通院や外出、外泊もできる範囲で行ってもらっている。 |   |      |                   |
| 20                           | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                     | 馴染みの理・美容室や食事処に家族と出かけられている。また、家族だけではなく、昔の同僚や友人、地域の方との面会もあり、続けて頂けるよう依頼している。         | 家族の協力の下、なじみの理・美容室へ出掛けたり、昔からの友人や同僚が来訪するなど、なじみの関係が続くよう支援している。 |      |                   |
| 21                           |     | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                 | 食堂での座席の配置を考慮したり、レクリエーションの中で自然と交流できるよう努めている。生活の中でも家事等の手伝いで協力し、支え合えるよう努めている。        |   |      |                   |

| 自己                                 | 外部   | 項目   | 自己評価  | ソナタ  | 外部評価 |                   |
|------------------------------------|------|--|---|--|------|-------------------|
|                                    |      |  | 実践状況  |  | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                    | 近くの方は声掛けを行い、経過を見守ったり、相談があれば支援を行うよう努めている。  |  |      |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |   |  |      |                   |
| 23                                 | (9)  | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 職員全員が利用者一人ひとりの思いや暮らしの希望を把握するために声掛けを行い、情報収集し、話し合いを持ち、理解に努めている。                       | 日々の支援の中で、希望や意向の把握に努めている。困難な利用者については家族から話を聞いたり、日々の表情や仕草、何か普段と違うという気づきを大切にしながら、思いや意向の把握に努めている。 |      |                   |
| 24                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | 家族や親せき、親しい友人に利用者の生活歴や過去の暮らしぶりについて伺い、それまでの暮らしと大差のない生活ができるように支援している。                  |  |      |                   |
| 25                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 一日の様子観察やバイタルチェック、介護記録、申し送りノートを作成し、朝礼や申し送り等で職員全員で状況を把握できるようにしている。                    |  |      |                   |
| 26                                 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 利用者本人、又は、関係各機関、介護、医療、家族や他者と共に、意見やアイデアを出し合い、その意見を基に介護計画書を作成し、家族にもモニタリングを行っている。       | 利用者、家族の意見や要望を基に、医療との連携も踏まえながら全職員で意見を出し合い、介護計画を作成している。また、介護記録書に計画内容を記し、日々のケアとの統一を図っている。       |      |                   |
| 27                                 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 介護記録で一日の様子を記録し、援助計画を横に添付し分かりやすい工夫をしている。その他にも、気付いた点や声掛けの成功例についても記載し、情報共有し、実践に活かしている。 |  |      |                   |
| 28                                 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               | 利用者本人や家族の意向を度々聞くことにより、可能な限り、柔軟な対応を行うように取り組んでいる。                                     |  |      |                   |

宮崎県延岡市 グループホームスローシティピアノ(ソナタ)

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | ソナタ   | 外部評価                                       |                   |
|----|------|---|---|---|--|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  |   | 実践状況                                       | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                      | 市内の大学生、高校生、中学生、小学生の訪問や保育園児とのふれあい、県内からの公演や演芸によるボランティアの活動を受け、豊かな暮らしを楽しまれている。      |   |  |                   |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                  | 当事業所の協力機関をかかりつけ医とし、定期的に往診があり、適切な医療が受けられるよう支援している。                               | 協力医がかかりつけ医となっており、往診体制も整っている。家族の協力の下、専門科受診を行っているが、管理者が付き添い日々様子を報告している。医師の指示等の情報は、管理者から職員に直接報告している。 |  |                   |
| 31 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | 24時間体制で連絡できる体制づくりをしており、介護職が日常の管理を行い、状況の変化を管理者、看護師に報告し、協力医から指示を受け、対応している。        |   |  |                   |
| 32 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用者が入院した際、家族や病院関係者と密に連絡を取り、協力医との連携で情報交換や相談に努めている。退院についても情報交換を行い、環境整備を整えている。     |   |  |                   |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | 利用者、家族の意向に沿って重度化や終末期について話し合い、医療との関係を図り、看取りが出来るように介護がチームとして支援している。               | 契約時や利用者の状況の変化に伴い、看取りに関する指針の説明を行い、本人や家族の意向を踏まえ、医療機関と連携を図り安心した最期を迎えられるように取り組んでいる。                   |  |                   |
| 34 |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | 利用者の急変や事故発生に備え、応急処置や初期対応の訓練を行い、実践力を身に付けている。                                     |   |  |                   |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている  | 指定の避難場所の理解や道順を年に二回以上の避難訓練で行い、熟知している。又、非常時の備えも備蓄している。今後は地域の方々との協力体制を築き、実施していきたい。 | 夜間帯を想定した職員への電話連絡訓練など、ホームでの自主訓練を定期的に行っている。また、管理者は発災時のより良い避難場所の選定などを念頭に置いている。                       | 夜間帯の発災を想定し、近隣住民の協力を得た避難訓練の開催を考慮することを期待したい。 |                   |

| 自己                               | 外部   | 項目   | 自己評価  | ソナタ  | 外部評価   |                   |
|----------------------------------|------|--|---|--|--|-------------------|
|                                  |      |  | 実践状況  |  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |  |   |  |  |                   |
| 36                               | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                   | 利用者の生活歴や性格等について、本人、家族からの情報を基に、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応ができるようにしている。                 | 接遇研修を通して、一人ひとりの人格の尊重やプライバシーの確保に努めているが、トイレの閉塞感を嫌がる利用者に対してドアを開放したままになるなど、プライバシーを確保できないことがある。 | やむを得ぬ事情であっても、プライバシーの確保は重要であるので、創意工夫したケアに努めることを期待したい。 |                   |
| 37                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                     | 日常生活の中で、利用者の思いや希望に気づき、否定せず、自己決定が出来るように働きかけている。                                  |  |  |                   |
| 38                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者一人ひとりのペースに合わせ、その日の希望に沿って支援できるよう、環境整備や見守りで安全・安心を心掛けている。                       |  |  |                   |
| 39                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | 更衣の際は、本人の意思を確認し、衣服を選択して頂く。又、月の活動予定でオシャレの日を設け、化粧やマニキュアを楽しまれている。                  |  |  |                   |
| 40                               | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている     | 利用者の体調や医療からの制限や特食を考慮した高齢者の食事内容としている。たまに外食や手作りおやつや利用者のリクエストに応え、楽しみが増えるように工夫している。 |  |  |                   |
| 41                               |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている          | 食事・水分摂取量は、毎食後記録を行い、嚥下困難な方には、ミキサーやトロミ、寒天等で一人ひとりに応じた食べやすい工夫をしている。                 |  |  |                   |
| 42                               |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                   | 毎食後に口腔ケアを行い、出来る部分は本人が行えるように準備や声掛けを行い、出来ない部分を支援している。                             |  |  |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | ソナタ   | 外部評価 |                   |
|----|------|---|---|---|------|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  |   | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている                              | 排泄記録や本人の排泄状態の観察、排泄前の仕草等から一人ひとりの排泄パターンを理解し、排泄の失敗やおむつの使用を減らし、可能な限りトイレで排泄できるように工夫している。 | 排泄つチェック表の活用や本人の仕草・表情から、誘導やさりげない言葉かけを行い、可能な限りトイレで排泄できるよう努めている。                     |      |                   |
| 44 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる  | 便秘の原因である運動不足や水分摂取不足を改善し、排泄状況の観察から指示の下剤を調整している。食事でも繊維質やヨーグルト等、腸にいいものを提供している。         |   |      |                   |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている                        | 入浴前のバイタルチェックや体調を確認し、本人の希望を踏まえ、好みのシャンプーやリンス、石鹸を使用し、ゆっくりと気持ちよく入浴できるよう配慮している。          | 本人の希望を踏まえ、日曜日以外は入浴できるようにしている。また、好みのシャンプーやリンス、石鹸を使い、ゆっくり入浴を楽しんでもらえるよう支援している。       |      |                   |
| 46 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している   | 一人ひとりの生活習慣や状況に応じて、照明や居室の室温、湿度等の環境整備に配慮している。寝つけない時には、話を傾聴し、安心して眠れるよう支援している。          |   |      |                   |
| 47 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている  | 服薬は処方箋にて確認し、名前や日付を確認して服薬管理を行っている。薬の変更や留意事項は、申し送りノートに記載し、観察、報告を行っている。                |   |      |                   |
| 48 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                             | 家事の手伝いで洗濯物たたみや干し、台拭きや縫い物等を出来る範囲でしてもらい、役割がもっている。月の活動予定に伴い、楽しみが持てるように支援している。          |   |      |                   |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 利用者一人ひとりの希望を把握し、散歩やドライブ、買い物等を行っている。又、家族の協力を得ながら、外食や外出される方もいる。                       | 家族の協力を得ながら、買い物や外食など利用者の希望に沿う外出支援に努めている。同一法人で行われる催し物には、できるだけ全員で参加するなど外出の機会を確保している。 |      |                   |

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価  | ソナタ   | 外部評価 |                   |
|----|------|--|---|---|------|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  |   | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | 個人で財布を管理されたり、お小遣いとして事務所で管理しており、本人の日用品等を購入させてもらったりしている。たまには一緒に買い物に出かけて本人がお金を使えるように支援している。          |   |      |                   |
| 51 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 携帯電話を所持している方もおられるが、ほとんどの方は、電話でのやり取りは希望により行っている。又、暑中見舞いや年賀状を作成し、家族や親せき、友人等に出す機会を作っている。             |   |      |                   |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者が不快な思いをされないように、毎日の掃除や換気、空調設備で気温や湿度調整を心掛けている。季節を感じられるように壁面や季節の花を飾り、居心地良く過ごせるよう工夫している。           | 共用空間には、利用者がくつろげるようソファやテーブル、椅子を配置している。季節を感じる花を飾り、居心地良く過ごせるよう工夫している。また、加湿器やエアコンで、快適に過ごせるよう配慮している。 |      |                   |
| 53 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | それぞれ個室があり、ホール内には、一人掛けのソファや皆で過ごせる大きいテーブルを置いて自由に過ごせる空間がある。又、中庭も自由に出入りできるようになっており、思い思いに過ごせるよう工夫している。 |   |      |                   |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 居室にはベッド、エアコンのみあり、他の空間は馴染みの家具や使い慣れた物や好みの物を自由に配置し、落ち着きながら居心地良く過ごせるように工夫している。                        | 利用者の好みで、使い慣れたたんすなどの家具を配置し、利用者が居心地良く過ごせる居室にしている。居室の入り口には家族との写真を掲示し、自室と分かるような工夫もなされている。           |      |                   |
| 55 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | 建物内部は、バリアフリーとなっており、廊下やトイレ、玄関や風呂場には手摺の設置があり、トイレは違うタイプのトイレでニーズに合わせた利用ができるようになっている。                  |   |      |                   |